

4.自主防災組織リーダー研修会〔福知山、長崎、長野〕

「自主防災リーダー養成講座」を開催

京都府 福知山市消防本部

福知山市消防本部では、各地域に防災リーダーを育成配置することにより、自主防災組織の立ち上げの手助け、及び災害発生時のリーダーシップの発揮等防災活動の向上を目指すことを目的に自主防災リーダー養成講座（初級・中級）を平成14年度から開講しています。

初級講座は自治会長、又は自治会長の推薦を受けて、災害等の発生時に中心的役割を担っていただける方を対象に、自主防災の必要性についての座学と、クラッシュシンドロームに注意しながらの屋内での車両用ジャッキ等を使用しての救出訓練、三角巾の使用方法や応急担架作製の救護訓練、AEDの取扱い訓練、バケツリレーやポリ袋を使用しての消火訓練を3時間の内容で年2回行っています。



救出訓練の状況



AEDの取扱い訓練



消火訓練の状況

中級講座は自主防災組織の立ち上げが行われている自治会のうち、初級講座の修了者で自治会長の推薦を受けた方に、各グループに別れての災害図上訓練（DIG等）手法の習得や初級講座での実技訓練をとりいれた発災対応訓練を3時間の内容で行っています。

座学や図上訓練には、（財）日本防火協会からの補助を受けて購入した資機材を活用しています。自主防災リーダー養成講座は、今年度の受講者を含め初級講座1231名、中級講座194名の方に受講していただき、初級講座への自治会の参加率も88%となりました。

▲ [このページの上に戻る](#)

平成21年度自主防災組織リーダー研修会を開催

防災に関する実践的知識と技術を有し、地域における防災活動等の中心的役割を担う人材の育成を目的に、(財)日本防火協会と長崎県との共催で「長崎県防災推進員(自主防災リーダー)養成講座」を以下のとおり開催しました。

【日程】平成21年11月14日(土)から15日(日)の2日間

【会場】長崎西彼農協ビル(長崎市)

1日目

『地震のしくみと被害』『火山のしくみと被害』

講師：九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター 教授 清水 洋 氏

- 海溝型地震や内陸地震のメカニズムについての説明の後、長崎県内で想定される地震について説明いただきました。
- 長崎県内の地震については、「長崎県地震等防災アセスメント調査報告書 平成18年3月」に調査結果が掲載されています。



課題についてグループで討議

雲仙活断層等による地震の震度想定や被害想定がわかり、県内においても震度6強から震度7の地震が起こりうるということが報告されています。

火山の現象は多様(溶岩流、火砕流、岩なだれ(山体崩壊)、泥流(土石流)、噴石(火山弾)、降灰、火山ガス等)であり、現象について、よく理解しておく必要があります。

火山災害を軽減するためには、住民・科学者・行政・マスメディアの4者が協力して防災体制を構築することが必要であるとの説明がありました。

『災害とボランティア』『避難所運営ワークショップ』

講師：大阪大学コミュニケーション・デザインセンター 特任講師 菅 磨志保 氏

- 大規模な地震災害時には、避難所が設置され、被災して大きなストレスを抱えた大勢の避難者が集団生活を営み、それを行政、ボランティア等、様々な人が支えます。
- 被災者は「それぞれ異なる事情を抱えた人間」という事実気づいてもらい、本当に意味のある活動とは何か、個々の被災者が求める支援は何かを考えていくため、実際に起こった事象を基に作成された課題について、グループワークにより、課題解決のための検討が行われました。



- 「ペットの犬を連れた高齢女性が体育館に避難してきて、先に避難していた住民から、入館を断られて、入り口で押し問答をしている。その女性の話では、さらにネコ2匹をつれた高齢女性が1人と、ウサギ1羽を連れた高齢男性1人がこちらに向かっているという。この対応をどうするか」「トイレが詰まってきた。何とかしてくれと声が高まっている。水道は依然断水が続いている。どう対応するか」などの課題について、グループ討議を行いました。
- このワークショップを通じ、実際に被災したときのことを想像し、あらかじめ備えておくべきことについて考え、防災に対する行動を起こしていくことが期待されます。

(参考) 『災害ボランティア実践ワークショップガイド(人と防災未来センター)』

2日目

『災害情報と避難』 『地域の実際の取り組み事例』

講師：群馬大学大学院工学研究科 教授 片田敏孝 氏

- 本年（平成21年）8月の台風第9号において、兵庫県佐用町で避難中に橋を渡って避難場所に向かっている途中に流された事例や、昨年（平成20年）の兵庫県の都賀川において、親水河川において、数分間でいきなり川が増水し、川遊びをしていた子供たちが流された事例について説明いただきました。



防災マップやハザードマップづくり

- 自治体から発信される河川の水位情報や避難勧告等の情報には限界があるので、地域に住む住民自らが、その地域の特徴や災害から身を守るために受けついできた知恵を伝承し、災いをやりすぎず知恵（自分自身の身をどうやって守っていくかという知恵）をいかにして、身につけていくかが最大の課題になっています。住民自らが危険を認識し防災活動を行ううえで、防災マップやハザードマップが有効であり、講師が地域に入って住民と一緒に防災マップづくりを行った事例について解説いただきました。最後に災害に対する日頃から備える必要があることから、「居安思危（こあんしき）」 やすきにありて、あやうきをおもうという言葉をいただきました。

『気象災害（土砂災害）』

講師：長崎大学工学部 教授 高橋和雄 氏

- 1982年の長崎豪雨災害（死者・行方不明者299人、1時間雨量187mmを観測）における、被害の概要、災害の特性等について説明がありました。
- 同災害の教訓として、大規模災害時には、警察、消防等の機関は、すべての被害に対応できるわけではないので、自主防災組織等による対応が必要。また、わかりやすい情報を住民に届けるための工夫が必要とのことでした。
- 特に、1時間に100mmを超える雨の場合は、車の取り扱いについても注意が必要で、長崎豪雨の際は、2万台が流されています。
- タイヤ半分（10cm）の水深では早めに高台の安全な場所に移動すること、洪水時の避難には車を使用しないこと、ドアステップ（30cm）の水深では歩道側に車をよせてキーを付けておくことなどの説明がありました。

『近年の災害に学ぶ』 『災害史に学ぶ』

講師：NPO法人防災情報機構会長、元NHK解説委員 伊藤和明 氏

- 平成の雲仙普賢岳噴火災害等、近年の災害の特徴及び過去の災害から学び、今後の防災対策に生かすため、各種災害についての解説をいただきました。
- 東海地震、東南海地震、南海地震の各域において、繰り返し大規模な地震が発生し、多くの場合、連動して起きています。1944年の東南海地震、1946年の南海地震が起きているが、東海地震域のみが残されています。今後、30年以内に発生する確率は、東海地震で87%という結果が出ております。
- 1896年明治三陸地震津波（死者 約22,000人）においては、地震の規模が小さかったため津波は来ないと考えた人たちを襲っている。揺れの弱い地震でも津波がくることがある（津波地震）、地震を感じなくても津波がくることがある（遠地津波）ということを知っておく必要があると説明がありました。

『救急講習』 119番通報の際の注意事項やAEDの使用方法等について説明いただきました。

最後に、「閉講式」では、（財）日本防火協会の水村様から修了証の授与及び記念品の贈呈、閉講のあいさつをいただき、2日間にわたる研修会は終了しました。

なお、研修会のアンケート結果をみてみますと、受講者の大半が大変有意義であったと回答しております。

このため、今後もこのような研修会等を通じ、より多くの県民に自主防災活動に対する関心を持っていただくとともに、地域での活躍が期待できる防災リーダーを養成していきたいと考えております。

▲ [このページの上に戻る](#)

平成21年度長野県自主防災組織リーダー研修会

長野県危機管理部

長野県では、11月12日（木）と13日（金）に伊那市の伊那文化会館で、翌週の19日（木）と20日（金）に長野市のホクト文化ホールで「平成21年度長野県自主防災組織リーダー研修会」を開催しました。



2会場で併せて70名が参加



伊藤氏による講義「気象情報の活用について」

この研修会は、長野県が委嘱した自主防災アドバイザー等を対象に、防災に関する知識、技能を習得させるとともに、その役割についての自覚を高め、地域における自主防災組織の活性化や組織づくりを推進できる人材の養成を図るため、総務省消防庁の後援のもと、（財）日本防火協会と長野県との共催により実施したもので、2会場で併せて37名の自主防災アドバイザー、33名の自主防災組織リーダー、関係する市町村防災担当職員等が参加しました。

2会場での開催となりましたが研修日程や内容等は両会場とも同様であり、1日目は、研修会に先だって今年度に新たに市町村から推薦のあった自主防災アドバイザー候補者に対して長野県から委嘱状の交付を行った後、研修会の開催となりました。

研修会ではまず最初の開講式が行われ、（財）日本防火協会振興部 児山部長および長野県危機管理防災課 木下課長からあいさつがありました。

その後、最初の講義として長野地方気象台防災業務課 伊藤防災気象官による「気象情報の活用について」の講義があり、気象台から発表される気象情報として、どういったものが、どんなときに発表され、それによってどのような事故や災害の発生が予想できるのかなど、気象情報の防災への活用についての講義が行われました。

次に、長野県危機管理防災課職員から防災に係る最近の動向や、県が行っている地域防災力アップ出前講座の活用と災害時住民支え合いマップへの取り組み等についての講義が行われました。

午後からは、地元消防本部職員による普通救命講習・応急手当が行われ、各参加者は消防本部職員の指導を受けながら、心肺蘇生法やAEDの使用方法等の実技に熱心に取り組み、1日目の研修会は終了となりました。

研修会 2 日目の午前中は長野県危機管理防災課職員による避難所運営ゲーム（HUG）が行われました。最初にゲームについての概要説明があり、その後 1 グループ 6 人程度に別れてゲームを行い、各参加者は次々に出されるカードの対応に追われながらも熱心にゲームに取り組み、終了後は「大変参考になった」「地元で実施したい」等の感想が多数ありました。

午後は、（財）消防科学総合センター 運本客員研究員による講演とグループ討議を行いました。「自主防災活動の活性化について」と題した講演では、災害にも強いまちづくりをキーワードに、キーパーソンを見つけ住民主体の組織をつくること、いろいろな活動の中にちょっとずつ防災風味を取り入れて無理なく息の長い活動を心がけることなど、自主防災活動の活性化に大変参考となる内容でした。

その後のグループ討議は 4 つのグループに別れて自己紹介や各自の活動状況等を発表し、参考となった事例や今までの問題点・問題の解決方法や今後の活動の進め方等の項目によって整理を行ったうえでグループごとに発表を行い、最後に運本先生からまとめがありました。

各グループともに非常に熱心に意見交換等が行われ、予定時間を延長して討議が行われました。参加者からは「運本先生の話がためになった」「他の地域の人たちの生の意見が良かった」「他の地区の良いことを自分のところでも取り入れたい」等の感想がありました。また、研修会全体を通しては「充実した研修会だった」「今後も定期的に研修をお願いしたい」等の意見が多数ありました。

最後に、（財）日本防火協会 富田課長（長野会場では水村課長補佐）から修了証の授与と閉講のあいさつがあり、2 日間の研修日程が終了となりました。



普通救命講習・応急手当の実技訓練



避難所運営ゲーム（HUG）

[▶ このページの上に戻る](#)

目次

- [1.（財）日本防火協会 会長挨拶](#)
- [2.新年のご挨拶（消防庁長官 河野栄氏）](#)
- [3.住宅用火災警報器の奏功事例 – 総務省消防庁](#)
- 4.自主防災組織リーダー研修会〔福知山、長崎、長野〕
- [5.婦人防火クラブ連絡協議会幹部研修会（中国・四国ブロック）](#)
- [6.住宅用火災警報器設置促進に向けて〔千葉、能代〕](#)
- [7.【幼少年活動】八尾市幼防クラブ員が「防火フェスティバル」に参加ほか〔天草、若狭、富山、別府〕](#)
- [8.【婦防活動】第 2 3 回岩沼市婦人防火クラブ連絡協議会防火研修会ほか〔取手、豊田、霧島〕](#)
- [9.【地方からの便り】“愛知県消防連合フェア”に少年・婦防クラブ員が参加ほか〔小山、名張、松山〕](#)
- [10.危険物取扱者試験、消防設備士試験実施のお知らせ](#)
- [11.【日本防火協会】婦防手帳追加申込受付・民間防火組織等の助成事業報告、交付申請ほか](#)